第１２回世界ジュニアペタンク選手権大会　報告書

日本ペタンク協会理事（国際部）
第 12 回世界ジュニアペタンク選手権大会
日本代表チーム監督　　佐　野　裕　二

１　大会概要

第１２回世界ジュニアペタンク選手権大会は、アフリカのチュニジアのモナスティールで、２００９年１０月２日～４日まで開催された。この大会は、隔年で開催されている。今回の大会には、アルジェリア、ドイツ、イングランド、オーストラリア、オーストリア、ベルギー、カナダ、台湾、デンマーク、スペイン、フィンランド、フランス、ハンガリー、イタリア、日本、リビア、ルクセンブルグ、マダガスカル、モナコ、モロッコ、ウェールズ、オランダ、ポーランド、スロベニア、スウェーデン、スイス、チェコ、タイ、チュニジア（２チーム)、トルコの３０ケ国３１チームが出場した。

大会会場は、チュニジアのモナスティールの屋外のペタンク場を使用して行なわれた。４ｍ×１５ｍのコートが３０ほど取れる広さで、砂利が敷き詰められた良いテランであった。また、夜間照明も設置されていた。しかし、通路や観客席が狭いため試合に支障を来たすこともあった。

２　日本代表選手団

今大会は、日本ペタンク協会が統一され全国のジュニア選手が一同に参加して、本年５月と７月の２度の予選会で選考された以下の４名の選手と監督・コーチならびに通訳で日本選手団を構成し参加した。８月には日本協会が主催した飯田市での強化練習会に参加し、チームとしての技術向上と相互理解を深め世界大会に参加した。

【代表選手】

キャプテン　小松　真美（長野県諏訪市 16 才）
　　平出知布味（長野県諏訪市 15 才）
　　佐竹　仙義（長野県飯田市 15 才）
　　田中　　宏（岡山県倉敷市 14 才）
監　督　　佐野　裕二（岡山県総社市）
コーチ　　井上まち子（埼玉県深谷市）
通　訳　　PAURINE　（フランス）

２　大会日程

大会日程は、下記のとおりであった。

大会第１日　　２００９．１０．２（金）		
10:00～11:00	監督会議	Hotel Monastir Center
13:00～	ティールコンテスト１次予選	大会会場
15:00～	ティールコンテスト２次予選	大会会場

17:00～	予選リーグ１回戦	対　カナダ戦
19:00～	予選リーグ２回戦	対　モロッコ戦

大会第２日	２００９．１０．３（土）	
9:00～	予選リーグ３回戦	対　スウェーデン戦
10:30～	予選リーグ４回戦	対　ハンガリー戦
11:00～	ティールコンテスト準々決勝戦	大会会場
13:00～	ティールコンテスト準決勝戦	大会会場
15:00～	予選リーグ５回戦	対　台湾
19:00～	ティールコンテスト決勝戦	タイ　対　ハンガリー

大会第３日	２００９．１０．４（日）	
9:00～	ネイションズカップ１回戦	対　トルコ
10:30～	ネイションズカップ２回戦	対　モナコ
15:00～	本大会準決勝戦	
17:00～	本大会決勝戦	イタリア　対　フランス
20:00～23:00	バンケット（パーティー）	Hotel Monastir Center

２　シューティング（ティールコンテスト）

大会初日の午後からシューティングが実施された。シューティングには、日本代表として、田中選手が出場した。緊張した中で競技が行なわれたが、持てる力を発揮した。１次予選の結果は、２３得点を上げ３０人中１２位の好成績で通過した。しかし、２次予選は１２点に留まり上位８人の中には入ることが出来なかった。ちなみに、最高得点は、フランスの選手が４３点を上げた。また、シューティングの優勝は前回優勝してレインボーシャツで臨んだタイの選手がベルギーの選手を破り２連覇を達成した。

３　本大会予選リーグ戦・ネイションズカップ（敗者トーナメント戦）

今大会は、スイス方式が採用され予選リーグの試合は１時間の時間制を取った。１時間が経つと笛がなり、試合が終了しない場合は、笛がなったメーヌとは別にもう２メーヌまで続行されその得点により勝利チームを決定した。また、各チーム５回戦を戦い、同じ勝敗のチーム同士が対戦するようコンピューターで対戦相手が決められた。最終的な順位は、①勝ち数、②対戦

した相手の勝ち数、③得失点差で決定された。世界大会で初めて適用されるスイス方式であったが、５回戦のリーグ戦であれば、やはり実力のあるチームが予選を突破した。最終的には３勝するチームが予選を突破することになった。なお、決勝トーナメント戦と予選通過できなかったチームのトーナメントであるネイションズカップは、時間制のない通常の国際ルールで実施された。

日本代表チームの予選リーグ戦の成績は、以下であった。

対戦	勝　敗　・　出場選手名	得　点	対戦国
	予選リーグ　役割（Ｐ・Ｍ・Ｔ）		
１回戦	日本（〇）　平出、小松、田中	**１３**－４	カナダ
２回戦	日本（×）　平出、小松、田中	５－１３	モロッコ
３回戦	日本（×）　平出、小松、田中	５－１３	スウェーデン
４回戦	日本（×）　佐竹、平出、小松	１２－１３	ハンガリー
５回戦	日本（×）　平出、小松、田中	６－９	台湾
	ネイションズ		
１回戦	日本（〇）　佐竹、平出、田中	**１３**－０	トルコ
２回戦	日本（×）　佐竹、平出、田中 （田中→小松）	１０－１３	モナコ

初戦のカナダ戦は、ポワンテの技術の差で圧勝することができ幸先のいいスタートが切れた。２回戦は、ティールの確率の差で敗戦した。モロッコのティルールは、ティールを殆ど外さなかった。技術の差を感じる試合であった。３回戦のスウェーデン戦は、ポワンテの技術の差で敗戦した。４回戦のハンガリー戦は激戦であった。当初リードしていたが、見事なカローを決められ逆転を許した。しかし、７対１２の状況で日本選手も見事なカローを決め５点を取り、１２対１２まで追いついた。しかし、最後の決勝点が取れなかったのが、現在の日本のレベルであった。その１点に世界の壁・世界との差を感じるものであった。５回戦の台湾戦では、逆転の可能性があったが、時間切れで敗戦となった。予選リーグ戦は、１勝４敗となり残念ながら 28 位で予選敗退という結果となった。しかし、ハンガリー戦に辛勝すれば、予選通過は十分可能なものであった。

最終日は、ネンションズカップ（敗者トーナメント戦）に参戦した。１回戦は、予選 21 位のトルコと対戦した。第１メーヌで見事なカローが決まり試合を完全に支配して、１３対０で圧勝することが出来た。日本代表チームの潜在能力を出し切れた試合であった。２回戦はモナコと対戦した。前半は優勢に試

合を進めていたが、相手ポワントゥールが交代してから流れが変わった。日本チームも流れをもう一度引き戻すためにティルールを交代した。そして、１０対１０の同点まで持ち込んだが、最後にモナコの９歳のティルールに見事にカローを決められ惜敗してしまった。

今回の世界選手権大会は、予選リーグ戦・ネイションズカップを通じて、２勝５敗という結果であった。総合すれば、３１チーム中同率２１位という順位であった。

本大会での優勝はフランスを圧倒したイタリア、準優勝はフランス。第３位がスペインとモロッコであった。

４　選手の所感

世界ジュニアペタンク選手権大会に参加して

小　松　真　美（長野県諏訪市）

今回、日本代表のキャプテンをやらせてもらいましたが、今回の世界ジュニアは自分の納得のいくものではありませんでした。世界大会でキャプテンというプレッシャーが大きくいつものようにプレーできず、本当に申し訳ないと思っています。
試合中、しっかり作戦を立てられていたか…それさえもあまり自信がありませんでした。プレーにも作戦にも自信が持てないようなキャプテンだった事を、他の３人に謝りたいです。

大会の事を思い返してみれば、カナダ戦は先に流れを持ってくることができたため、焦ることなく３人が投げることができたと思います。しかし、その後は相手が自分たちより上手だったという事もあり、ミスも多くなり大差で負けたりしています。大差で負けた所のチームは、まずティールの精度がとてもよく、だいたい２球投げれば最低でも１球は当てたりします。そしてポワンテに関しては点数を取った後の１球目にミスがなかったです。大量得点の後の１球目はとても大切で、ここでどれだけ寄せられるかで、その後の試合の流れが大きく変わります。いくら大量得点を取っても、相手に勢いがあればすぐに相手に大量得点を取られます。その差が少しあったと思います。それがよくわかるのが、ハンガリー戦かと思います。実際、１球どころか自分も含めカバーできなかった３人の責任ではありますが・・・。

もう少し自分がちゃんとしていれば、一緒にやっていた２人のプレッシャーが少なくなったと思います。

〈監督談〉 小松キャプテンは、体調が優れない中で本当に良くがんばってくれました。力を十分出し切れなかったところはあったかもしれませんが、ハンガリー戦で同点に追いついたカローは見事でした。あなたの状況を打開する力は素晴らしいものがあります。この経験を生かして、日本の第一人者に成長してください。期待しています。

世界ジュニア選手権大会を終えて

平　出　知布味（長野県諏訪市）

今回の大会は、私にとって２回目となるジュニアの世界大会でした。この大会を通じて感じたことは、カバーの大切さと詰めの甘さです。モロッコとの試合で序盤まで競った戦いが出来ていたのは、３つのポジションの１人がミスしても、２人でカバーが出来ていたからだと思います。その連携が取れなくなれば、大量失点に繋がり、そのメーヌで流れが変ってしまいました。

また、ハンガリー戦のようにリードしていながら、最後に得点できない場合も多くありました。あと１点のプレッシャーに勝てる力が必要だと思います。

勝てる試合が多くあったのに勝ちきれない悔しさをしみじみ感じました。世界のレベルを改めて経験してジュニアの内に学べた事を生かして、次は一般の中で戦って行きたいと思います。

<監督談>平出選手は、全試合にフル出場しポワントゥールとして、ミリューとして日本代表チームを支えてくれました。攻める時も守る時も常に力を出し切って、チームを勇気付けてくれました。この経験を生かして、世界でも通用する選手に成長してください。

世界ジュニアペタンク選手権大会に参加して

佐　竹　仙　義（長野県飯田市）

僕は、日本代表としてチュニジアで開かれた世界ジュニアペタンク選手権大会に出場しました。大会を通じて３つの事を学ぶことができましました。

まず、１つ目の日本代表チームの課題は、チーム練習ができなかったことです。意思の伝達が上手くできなかったところもあったと思います。もっと選手同士で日頃から連絡が取り合えたらよかったと思います。

２つ目に僕の学んだことは、自分の役割の重さや、１球の重さです。２球しか自分のボールがない中で、きっちりと自分の仕事をしなければならない。自分が１球失敗するだけで、チーム全体の雰囲気を低下させることにもなってしまいます。ペタンクの１球の重さを改めて感じました。

最後に、僕の課題ですが、最後に空港での反省会でも言いましたが、プレーやその他のことについても自信を持つことです。次回の世界大会は、僕が最年長になるので日本チームを率いていかないといけません。なので、今回の大会での反省を生かしつつ、次回大会にも日本代表をめざして、日々の練習に取り組んでいきたいと思います。

<監督談>佐竹選手は、日本代表チームが苦しいときに流れを変え勢いづける重要な役割を果たしてくれました。特に、トルコ戦では安定したポワンテで相手を圧倒し、日本チームの潜在能力を引き出し、勝利に導いてくれました。佐竹選手にはもう一度世界ジュニア選手権のチャンスがあります。今回の経験を生かして、次こそ予選突破をめざしてください。

世界ジュニア選手権大会に出場して

田　中　　宏（岡山県倉敷市）

この度、１０月２日～１０月４日までチュニジアのモナスティールで開催された世界ジュニア選手権大会に出場させていただきました。１０月２日はティールコンテストがあり、１０月３日に開会式があり、そこから試合が始まりました。

１０月２日　僕はチームの代表でティールコンテストに出場しました。僕は初めてティールコンテストに出場するので、本当に緊張が絶えませんでした。その中でいよいよティールコンテストが始まりました。周りを見ていると皆、カローが出たりしていました。これこそが本当の‘‘世界の壁‘‘なんだと思いました。そして、自分の出番がまわってきました。精神面だけは負けないぞと思いながらコートに入りました。試合が始まり、サークルに入ったとたんに足がとても震えてきました。また、失敗すると自分に自信がもてなくなりましたが、ビュットティールやカローが成功した時は皆が拍手をしてくれたのでとても気持ちが楽になりました。しかし、結果は２３点でした。予選で３０人中１２位でした。１次予選は通過する事ができました。しかし、自分なりには３０点を目標にしていただけに悔いが残りました。

ティールコンテストの予選が終了すると、午後からトリプルスの試合が始まりました。まず、初戦にカナダと対戦しました。相手のミスが多かったので勝つ事ができましたが、自分の役割であるティールの確率がとても悪かったのでチームメイトに助けてもらった試合でした。

２試合目はモロッコと対戦しました。またも、自分のティールの確率が悪かったので負けてしまいました。やはり負ける理由は、ティーラーが１投目で当てられないことや、ビュットの手前に置くはずのボールが横に外れたり、オーバーしていることだと思いました。なぜなら、外国のチームは守りのときは確実に手前においてくるからです。また、この日に思ったことは、外国はチームワークがとても良かったことです。ティールが成功したら全身で喜んだり、ファインプレーをするととても盛り上がっていたからです。僕は、日本もチームワークが良かったらなぁ・・・と自分でもとても反省しています。１日目が終わったころにはとても疲れていました。

１０月３日　この日は先日の予選の続きがありました。３試合あり、スウェーデン、ハンガリー、台湾と対戦しました。スウェーデン戦の試合内容は、前日と比べると少しティールもポワンテも自分の投球ができるようになってきました。しかし、この試合も落としてしまいました。ハンガリー戦は１２－１３で負けました。そして、この試合僕が不調で選手交代をして外から試合を見ていて思ったことがあります。それは、自分も含めて日本チームはもう少し先を考えて投球する必要があることです。外国のチームは、相手チームがボールを投げ終わると何のためらいもなくティールをしたり、ポワンテをしたりしていたからです。そして、この日（予選）最後の試合 VS 台湾戦はチームワークもできてきました。また、ポワンテ、ティールともに確

率が上げってきました。しかし、時間制限で負けました。調子がいいときに負けるというのは本当にがっくり来るなぁと思いました。予選が終わると、ティールコンテストの決勝がありました。優勝は、タイの選手でした。２連覇のプレッシャーもあったと思いますが、素晴らしい集中力が優勝へとつながったと思います。僕も、タイの選手のように、レインボーシャツを着たいという気持ちが高まりました。

１０月４日　この日は大会の最終日でした。惜しくも決勝にあがれなかったので、ネイションズカップでの試合となりました。1 回戦はＶＳトルコでした。前日の疲れがどこにいったのか、とっても気合十分でした。おかげで、１３－０で勝利しました。この調子で勝ち進みたかったのですが、２回戦ＶＳモッロコ戦で負けて、この大会の試合全てが終わりました。最終結果は、総合順位２８位、ネイションズカップベスト８という結果でした。

◆ 全体を通して◆

僕は、長時間飛行機に乗ったことがないので、こんなに時差ぼけになるとは思いませんでした。ボールを投げても、投げているという感覚がなくなるのです。従って、いつもの調子があまり発揮できませんでした。だから、自分はいくら遅くても試合が始まる１日前には現地に滞在したほうが良いと思います。

試合コートは地面が硬く、細かい石がまかれていて、それもまばらで落とす位置や、ボールの高さを間違えるとコート外にボールが出たり、相手のボールを押してしまったりしました。だから、いつもの練習でやっているポルテができませんでした。しかし、自分よりレベルの上の人はポルテをすると見事にその場で止まってボールがすごく回転していました。こんなポルテをこれから自分もできるようになりたいと思いました。

ティールコンテストでは、デンマークの人たちが正面にいて、ティールが成功するとみんなが拍手をしてくれたのでとても勇気をもらいました。チーム以外の人たちの人柄の良さをとても感じました。また、ホテルに帰ると見知らぬおばあさんが『君のティールよかったよ』みたいなことをいってくれたので、本当に精神的な面で気持ちが楽になりました。

試合の面では、最初はチームワークがいまひとつ良くなかったけど、日がたつにつれて少しずつ良くなってきました。また、ティールが外れると『おしい』『どんまい』などといってくれてチームワークのよさを感じました。チームワークのよさは順位が上がるほど良くなっていると思いました。なぜなら、フランスのチームの人たちは１球投げるごとにチームの中でハイタッチをしていたからです。チームワークの重要性をしみじみ感じました。

日本代表チームメイトのみなさん、いろいろとありがとうございました。大会中にいろいろ迷惑をかけて、いろいろと助けてもらったと思います。とても楽しい試合ができました。本当にありがとうございました。最後になりましたが、世界ジュニア選手権出場にあたり、多くのご支援、ご声援をいただいた、監督やコーチ、岡山県ペタンク協会などたくさんの方に支えられよい経験、よい思い出をつくることができました。本当にありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。この経験を無駄にせぬよう、次回の大会も出場を目指して、国内での実績をつくっていきたいと思いました。

〈**監督談**〉田中選手は、最年少でありながらシューティングに出場して、見事１次予選を突破しました。また、試合では、常にティールルとして、プレッシャーと戦い続けました。田中選手のティールは必ず世界に通用する時が来ます。次回の世界ジュニア選手権では、見事なティールで観客を驚かせてください。

世界ジュニア選手権大会に参加して

日本代表コーチ　井　上　まち子　氏

新生日本ペタンク協会となって初めての世界大会選手団の結成だった。長野での２回の選考会の課題をクリアーし立派に成績を残した４人の選手とともに、アフリカの地チュニジアのモナスティールで行われたペタンク世界ジュニア大会に出場した。日本からパリ経由で 20 時間をかけて、保護者を含め総勢１０名の遠征になった。

自宅を出発しておよそ２日間の移動時間という過酷な状況に見えない疲れがあったことは言うまでもない。夜中 24 時近くにホテル到着し、体調を考え翌朝はゆっくり準備して 10 時頃から会場入り、練習を行った。昼はホテルに戻り昼食をとる。午後から開会式、そしてティールコンテスト開始。最年少の田中宏君が出場した。初めての世界大会出場に笑顔のなかに相当の緊張を感じた。それでも 23 点と頑張った。予選クリアーで力が抜ければよいが、大抵の選手がここからのしかかるプレッシャーを体で味わうのである。２回戦はやはり経験者が強い。予想はしていたが誰もが味わう敗北感は否めない。日本の未来を託すためにこの経験は嫌でも通らなければならないと観念しながらも、この場で日本の素晴らしい選手が生まれると希望が持てた。

また、他国の上位選手がティールコンテストのために、一般選手とは別メニューでコーチが 1 年間付きっきりで練習してきたと自慢げに話していた。それくらい重点を置いて調整をしているようだった。日本では環境の違いが大きい。現況では仕方がないのかと納得をするが、しかし、選手達へ大会に臨むための環境提供が十分できなかった大きな責任を本当に実感した。

本大会は夕方からだった。予選はスイス方式が取り入れられ、時間制も導入された。時間終了時に合図があり、その時点でのメーヌ終了後２メーヌの追加で勝敗を決めた。特別ルール導入で、コートラインは全てエンドラインとし、ビュットまでの距離を通常では１ｍを５０ｃｍとされた。

選手達は本当によく頑張った。しかし、後一歩というところで自分の持つ納得したプレーが出せなかった。やり直しの出来ない１投が結果の全てになる。この事は選手にとっても監督・コーチにとっても大きな課題となった。心の中での本人の葛藤をどう沈めるか、取り払ってやれるのか、奮起させられるか、褒めるのか、叱るのか、多少とも迷いがあった事は事実であった。監督とコーチ、そして選手が一体となって戦うことの必要性を重く実感した。全て、これからの課題である。

最後に、佐野監督の暖かな心遣いに選手も私も和むこと多く、感謝している。また、日本のペタンク界の新たな出発において、本当に多くの方々の支えがあり、こうして世界にも参加できたことに心から感謝している。ありがとございました。

【監督からコーチへ】今回の世界ジュニア選手権大会への参加にあたり、井上コーチの存在は大変大きいものがありました。やはり、豊富な国際大会の経験から、大会への準備・臨み方、選手へのアドバイスの仕方、選手起用の決断など私ではできないことがたくさんありました。今後とも、日本のジュニア選手の育成にために、共に取り組んでいただきたいと思います、本当にありがとうございました。

４　総評

今回の世界ジュニア選手権大会に参加して、評価できることと今後の課題について述べる。

まず、今回の４人の日本代表選手は、各選手の持てる力を最大限に発揮して試合に臨むことができた。また、調子の悪い場合は選手の交代をしながら、チームで試合に臨み、持てる力を十分発揮することができた。ただ、アフリカのチュニジアまで移動に２０時間以上かかり、選手の体調管理と調整は大変困難であった。また、今大会では、ヨーロッパ勢のレベルは大変高いものであった。また、シューティングで優勝したタイは、アジアの中では突出していた。今後、日本が世界のレベルに達するためには、いくつかの課題に取り組まなければならないことを痛感した。

その課題を挙げることにする。

① 組織としてジュニア選手の育成

現在のジュニア選手は、全国に点在しており個としての選手である。組織としてジュニア選手を養成するために、まず、日本協会にジュニア育成の基本方針を制定する必要がある。その方針に基づき、各県協会でジュニア育成の組織（クラブ）を結成し、組織として選手層の拡大を図る取り組みが必要である。

② ジュニア指導者の養成

技術的、メンタル的なトレーニング指導ができる指導者の養成を図り、全国に配置する取り組みが必要である。

③ 選手強化体制の確立

全国を数ブロックに分けて、他のスポーツ団体が採用しているようなトレーニングセンター体制を確立し、選手強化を図る必要がある。

以上３点の課題を提言させていただきたい。

最後に、私は初めて国際大会の監督という大役を仰せつかった。戸惑うことが多々あったが、井上コーチのアドバイスや通訳の PAURINE 氏のサポートや同行していただいた保護者の皆様の御支援・御協力により、大役を果たすことができた。日の丸を胸に、日本代表として世界に挑戦することの素晴らしさとその重要さ困難さを痛感しつつ、感動的な体験であった。この経験をもとに、これからの日本のジュニアの発展、日本ペタンク界の発展のために、微力ではありますが取り組ませていただくことをお誓い申し上げ、第１２回世界ジュニアペタンク選手権大会の報告書とさせていただく。